

基本目標 5

市民、事業者、市の協働により

環境的側面、経済的側面、社会的側面の統合をはかります

(1) 環境教育・環境学習の推進

施策の目標

環境教育・環境学習の場を確保し、地球環境、地域環境にやさしい人づくりを進めます

指標の実施・達成状況

【指標】	【平成23年度の実施状況・達成状況】
● 社会教育分野における環境学習を推進します	● 教職員を対象とした理科基礎技術講座を7回開催しました ● 市民大学、コミュニティセンターなどにおいて環境関連の講座を開催しました
● 環境教育指導者登録数と指導者派遣回数増加をはかります	● 平成23年度末の環境教育指導者登録数は14人です ● 平成23年度の環境教育指導者の派遣回数は10回、延べ29人であり、延べ421人が受講しました
● 人材育成の場を設定し、環境学習の教材や情報を提供します	● 教育情報センターと連携した環境データベースを活用したほか、「相互交流を生かした人材育成講座」を3回開催しました

現状と課題

- ・ さまざまな環境施策を推進するためには、幅広い主体の“環境に対する意識・知識の向上”を図り、専門的な知識を持つ人材の育成・活用や、核となる人材・団体・事業者などの育成・支援により、取り組みを活性化させていく必要があります。
- ・ 本市では、これまでも環境情報を集約し、インターネット上で整備・公開するなど、環境教育・環境学習の基盤となる情報の充実を積極的に進めてきました。また、平成20年度からは環境教育・環境学習マスタープランに基づき、子どもから大人まで幅広い主体が環境教育・環境学習に参加できるよう、「人づくり」、「機会づくり・場づくり」などの取り組みを進めています。
- ・ 平成23年度においては、従前から引き続き教育情報センターと連携した環境データベースの活用などにより情報の発信を行うとともに、「環境教育・環境学習ネットワーク会議」のトライアル事業として、「相互交流を生かした人材育成講座」を開催するなど、人材育成の場の確保に努めてきました。今後も、市民、事業者、団体、学校などあらゆる主体に対して、環境教育・環境学習の支援に関する情報の整備・提供を進めるとともに、拠点となる施設・設備の整備や活用を推進し、人材育成のための制度を検討するなど、環境教育・環境学習推進のための体制づくりを積極的に推進する必要があります。

- ・ 次世代を担う子どもに対しては、環境教育指導者を小中学校などに派遣することにより、環境教育を推進しています。しかしながら、環境教育指導者については、登録数、派遣回数、派遣人数ともに減少傾向にあります。この要因としては、指導者の高齢化や東日本大震災による課外授業の自粛などが考えられます。今後は、環境教育指導者を派遣した具体的事例を学校に紹介し、まず派遣回数の増加を目指します。
- ・ その他、教職員を対象とした理科基礎技術講座や市民大学、コミュニティセンター等において環境関連の講座を開催し、社会教育分野における環境学習を推進しています。今後も、こうした講座や自然観察会の開催など、環境教育・環境学習の機会の充実に努めることが重要です。

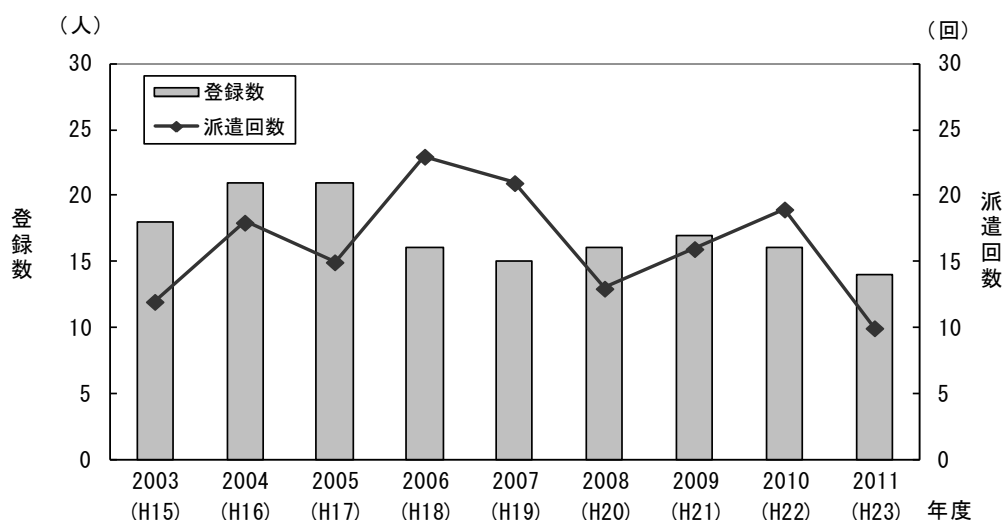


図 2 - 8 環境教育指導者登録数および指導者の派遣回数

平成 23 年度の主な施策の実施状況

① 環境教育・環境学習の推進のための体制づくり

◎ 環境教育・環境学習の拠点となる施設・設備の整備・活用

【学校施設における新エネルギー設備等の導入および活用】

- ・ 学校において、太陽光発電等の新エネルギー設備を導入し、施設内の電力として使用するとともに、環境学習に役立てました。
- ・ 市内小学校では、大塚台小学校(平成14年度)および大矢部小学校(平成19年度)に太陽光発電システムを設置しています。

【動植物観察地を環境教育の場として活用】

- ・ 光の丘水辺公園において、指定管理者およびボランティア団体(水辺公園友の会)による里山の維持・管理および自然観察会等を開催しました。

【天神島臨海自然教育園および馬堀自然教育園の管理事業】

- ・ 市のすぐれた海の森の環境として、天神島臨海自然教育園および馬堀自然教育園の保全管理事業を実施しました。
- ・ 三浦半島における身近な自然の保全・再生モデル実験地として動植物のモニタリングを実施し、「自然教育園だより」で公表しました。

◎ 環境教育に係る指導者の登用および活用の拡大

【理科基礎技術講座の開催】

- ・ 野外活動や環境教育を推進する指導者としての知識や技術を深めることを目的に、教職員を対象に理科基礎技術講座を全7回開催しました。

【環境教育に係る指導者等の派遣】

- ・ 国で認定した環境カウンセラー等を環境教育指導者として登録し、希望する学校等に派遣しました。
(10回延べ29人派遣、延べ421人受講)

◎ 環境教育に係る人材育成制度の検討

【職員研修の実施】

- ・ 職員研修の一環として、新規採用職員を対象に地球温暖化やごみ問題などの環境問題およびYES等の本市の取り組みについて理解を深めるための研修を実施しました(受講者:64人)。

【相互交流を生かした人材育成講座の実施】

- ・ 環境教育・環境学習ネットワーク会議のトライアル事業として、市民、事業者、学校、行政等が相互に専門知識を教えあう「相互交流を生かした人材育成講座」を3回実施しました。

② 環境教育・環境学習の機会の充実

◎ 環境教育・環境学習に関する各種学習会、イベントなどの開催

【こどもエコクラブの推進】

- ・ 日本環境協会が実施する「こどもエコクラブ事業」に登録し、環境活動を通じて子どもたちに対する環境意識の醸成を図りました(登録数:6クラブ、参加こども数:75人、サポーター:35人)。

【猿島自然観察会】

- ・ 東京湾唯一の自然島である猿島において自然観察会を開催しました。
- ・ 6月4日に実施した一般対象の観察会では、子ども17人、保護者13人が参加しました。また、学校対象では、9月29日に143人(明浜小学校3年137人、教諭6人)が参加しました。

【「よこすか環境フォーラム」の開催】

- ・ 一般市民を対象に、環境への関心を深めてもらうイベントとして「よこすか環境フォーラム」を、平成24年1月21日にヨコスカ・ベイサイド・ポケットで開催し、432人が参加しました。

【環境に関する講座の開設】

- ・ 博物館教室として「昆虫教室」など5行事を開催しました。
- ・ 自然観察会「ウミウシの観察」など9行事を開催しました。

【巡回環境パネル展】

- ・ 野比小学校、津久井小学校、衣笠行政センターの3カ所で環境学習用のパネルを展示しました。

【コミュニティセンターにおける教育関連講座の開催】

- ・ コミュニティセンターにおいて環境教育に関連する講座を開催しました。

【「出前授業」の実施】

- ・ 市内小学校33校において、水循環の概念や水の大切さ、水環境保全の必要性について理解を深めてもらうため、出前事業を実施しました。

【横須賀ECO大賞】

- ・ 優れた環境保全活動や環境教育の取り組みについて、部門賞、特別賞あわせて3団体を表彰しました。
(表彰式は環境フォーラム内で実施)

【「よこすか地域力向上プラン～学びから始まる地域づくり～」】

- ・ 学習成果の地域還元を啓発するイベントを、自然環境保護をテーマにして実施しました(参加者63人)。

【モビリティ・マネジメント教育の実施】

- ・ 高坂小学校の6年生を対象にモビリティ・マネジメント教育*を5回実施しました。

※ 移動手段や社会全体の交通を見直すことで環境改善についての自発的な行動を促す教育のこと

【海の魅力発見・体験in走水の開催(エコポート事業)】

- ・ 走水海岸において、小学生の親子を対象に、シュノーケリング教室を開催しました。
(開催日:8月27日、参加者数:26人)

【市民大学事業(生涯学習センター指定管理事業)】

- ・ 自然災害や地球温暖化問題などの多様な観点から、環境と人の暮らしについて学ぶ講座を開催しました。

【よこすか環境シンポジウムの開催】

- ・ 環境基本計画の周知啓発を行うため、「よこすか環境シンポジウム」を6月30日に開催しました。

◎ 環境学習プログラムの活用

【環境学習プログラムの活用】

- ・ 環境学習に取り組むため「環境学習プログラム」を校長会、教科外総会、ホームページにおいて周知を行いました。

今後の主な施策の実施予定

- ・ 環境教育指導者の派遣については、平成23年度に活用した具体的事例と併せて学校に紹介することにより、派遣を希望する学校の増加を図ります。
- ・ 環境教育・環境学習ネットワーク会議のトライアル事業として、「相互交流を生かした人材育成講座」を3回実施し、また環境関連情報を掲載した「よこすかECO通信」を年4回発行します。
- ・ 猿島自然観察会については、一般市民の応募による開催を1回、市内小学校を対象に2回開催します。
- ・ 環境に関心を深めてもらうイベントとして「よこすか環境フォーラム」を平成25年1月に開催します。
- ・ 横須賀ECO大賞については隔年の表彰とし、平成25年度の応募に向け、より意義のある表彰となる見直しを進めます。

(2) 経済・社会活動との調和

施策の目標

環境と経済の好循環をはかり、社会的な側面との統合をめざします

指標の実施・達成状況

【指標】	【平成23年度の実施状況・達成状況】
<ul style="list-style-type: none"> ● 環境ナビゲーションシステムの活用による環境配慮を推進します 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境ナビゲーションシステムを開発事業者等に配付し、環境配慮の実践を促進しました（CD-ROMとして40件配付）
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民・事業者の環境活動の取り組みを推進・支援します 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民協働推進補助制度を活用して環境系の団体に補助を行いました ● 事業者に対するISOの取得支援を行いました ● 水質保全協議会の活動を支援しました
<ul style="list-style-type: none"> ● 市の公共事業において、率先して環境への配慮を実践します 	<ul style="list-style-type: none"> ● (仮称)久里浜1丁目公園の整備において透水性アスファルト舗装材を使用しました ● 野比川の河床補修工事において水生生物に配慮した水辺環境整備を行いました
<ul style="list-style-type: none"> ● 事業者との共同によりEV（電気自動車）普及促進に向けた支援を進めます 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者への充電器設置費補助を3件、購入に対する補助を3台実施しました
<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街における環境配慮の取り組みを推進します 	<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街共同施設整備・補修事業補助を5団体、5事業に実施しましたが、このうち、街路灯の電球を水銀灯から省エネ電球に交換する事業はありませんでした

現状と課題

- ・ 産業規模の縮小や少子高齢化など、地域経済・社会が縮小傾向にある本市において、『持続可能なまちよこすか』を実現するためには、次の時代を見据えた地域経済・社会の姿として「環境的側面・経済的側面・社会的側面の統合」が重要となってきます。
- ・ このためには、協働を基盤とし、環境に対する意識・知識を持った主体が推進力となった取り組みや、地域で取り込まれる環境に寄与した社会活動や経済活動を支援していく必要があります。
- ・ 経済活動に対しては、これまで開発事業などに対して環境配慮の実践を促すため、「環境配慮指針」や「環境ナビゲーションシステム」の活用やISOの認証取得支援などを実施し、平成23年度はこれまでの取り組みに加え、EV普及促進のため充電設備や車両の購入に対する補助を行いました。
- ・ 低炭素社会への転換といった国の大きな方向性に対応するためにも、地域経済・社会のあり方を転換させるとともに、活動主体にメリットがもたらされるなど、それぞれの経済活動そのものが活性化、好転するような仕組みづくりなどが重要です。

- ・ 社会活動に対しては、これまで本市では、市民協働推進補助制度を活用して環境系の団体に補助を行うなど、市民活動に対する支援などを行ってきました。
- ・ 今後も、社会活動を行うことにより、市民や団体などの活動主体にメリットがもたらされ、結果として地域社会がよくなるといった仕組みづくりが重要です。
- ・ また、こうした取り組みの先導役となるよう、市自らも公共事業における環境配慮の実践など、取り組みを積極的に進めていく必要があります。

平成 23 年度の主な施策の実施状況

① 環境と調和した経済活動の推進

◎ 「横須賀市環境配慮指針 開発行為等事業編」および「環境ナビゲーションシステム」の配付による環境配慮の実践の促進

【環境配慮指針 開発行為等事業編および環境ナビゲーションシステムの活用】

- ・ 環境配慮指針 開発行為等事業編について、パソコンによる検索が可能な「環境ナビゲーションシステム」を、「適正な土地利用の調整に関する条例」に基づく協議の際に開発事業者等に配付し、環境配慮の実践を促進しました。(CD-ROM:40件配付)

◎ ISOやエコアクション21の認証取得を検討している事業者に対する補助や取得相談の実施

【中小企業制度融資におけるISO取得支援メニューの設定】

- ・ 中小企業制度融資において、ISOの認証取得に対する融資をメニューの1つとして設定しました。(補助対象は中小企業者や共同組合等)
- ・ 平成23年度は申請がありませんでした。

【横須賀市ISO等認証取得促進補助事業】

- ・ ISO等の認証取得に要する費用補助を実施しました。(補助対象は中小企業者または個人事業主)
- ・ ISO等認証取得促進補助実績は4事業所、計882千円でした。うち、ISO9000シリーズは2事業所、エコアクション21は2事業所でした。

◎ EV（電気自動車）の補助制度やインフラ整備などの検討

【電気自動車普及促進事業】

- ・ 電気自動車の普及促進に向け、事業者を対象とした充電器設置費補助とEV購入費補助を実施しました。(充電器設置費補助、EV購入費補助ともに各3件)

◎ 商店街における省エネルギー設備などの導入

【商店街共同施設整備・補修事業補助】

- ・ 商店街共同施設整備・補修事業補助を5団体、5事業に実施しました。ただし、このうち、街路灯の電球を水銀灯から省エネ電球に交換する事業はありませんでした。

② 環境と調和した社会活動の推進

◎ 環境活動実施団体に対する支援

【協議会への参加】

- ・ 横須賀市域の河川、沿岸海域等の水質浄化を推進している横須賀地域水質保全協議会に補助金を交付し、施設研修会、水質環境調査、研修会などに参加しました。
- ・ 協議会の機関紙「恵水」26号を発行しました。
- ・ 協議会により追浜中学校科学部への助成を行いました。

◎ 協働による環境に配慮したまちづくりの推進

【市民協働型まちづくり推進事業】

- ・ 企画提案型補助事業である市民協働推進補助制度を実施しました(環境系の補助団体として、「水仙の会(道路脇等に水仙を植える等の美化活動)」に補助)。
- ・ 市と企画を提案した市民団体が協定を結び実施する市民協働事業を実施しました(環境系の企画としては、横須賀港の海面清掃市民協働モデル事業(横須賀港湾防災支援会・横須賀ヨット協会)を実施)。

【公共施設花いっぱい事業】

- ・ 公園などの公共施設の花壇(4カ所、332㎡)に四季の花を植栽しました。

今後の主な施策の実施予定

- ・ 引き続き「環境配慮指針 開発行為等事業編」および「環境ナビゲーションシステム」の配付により、開発事業者等に環境配慮を促します。
- ・ 事業者に対するISO等取得のための支援を継続します。
- ・ EV普及のための支援策として、PCS(電力制御装置)の設置費補助を開始します(対象は、災害等の非常時に市の協力要請に対応可能な事業者とします)。
- ・ 市民協働推進補助制度(環境系)として、「水仙の会」、「三浦半島「ふれあい楽校」」に補助を行います。
- ・ 市民協働事業(環境系)として、「横須賀港の海面清掃市民協働モデル事業」、「里山的環境保全・活用事業」を実施します。
- ・ 継続して「花いっぱい事業」を推進します。